

# LEADERS NOW!

■リーダーズ・ナウ [在学生・卒業生インタビュー]



## 社会人野球で日本一に

直球に磨きをかけ、総合力で勝負

●経済学部 4年次生  
石田 光宏 さん

今春から社会人野球チームの名門、東京ガス硬式野球部への入部が内定した石田光宏さん。大学では4年間を通じてエースとして活躍し、平成26年度関西学生野球連盟秋季リーグではチームを19年ぶりの優勝へと導いて、42年ぶりの明治神宮野球大会出場を成し遂げた。続く平成27年度関西学生野球連盟秋季リーグでは、史上10人目、25年ぶりの快挙となるリーグ戦通算30勝を達成。その躍進の裏には、気持ちの強さとチームメートの支えがあった。



大学通算30勝達成の大横断幕▶

「一番の持ち味は、気持ちの強さ」という石田さん。スライダーやツーシームなどの多彩な変化球を操り、特にランナーを出してからの粘り強いピッチングには定評がある。甲子園の土こそ踏んでいないが、大学では1年次生からマウンドに立ち続け、リーグ戦通算30勝を達成するなど、数々の偉業を成し遂げた。しかし、「まだまだ波のある選手だと思います。30勝したけれど23敗している。周りには分からなくても、自分では投球やコントロールのブレを感じていました」と、自身を冷静に分析。追い求めていたストレートの感覚がつかめたのは、最近だという。

石田さんを飛躍へと導いたのは、2年次生の冬に就任した早瀬万豊監督だった。社会人野球で投手・コーチ・監督の経験を持つ同氏によるフォームや投球技術、意識の仕方等の感覚的な指導は、とても分かりやすかったという。「それまで正しいと思っていた投げ終わりのフォームがベストではないことに気がきました。そこを修正することができ、制球や打たれにくいストレートを磨くために目指すべきポイントもクリアになった。それらを追うことで感覚がつかめ、投球が安定しました」。

一番心に残っている試合は、自身初の全国大会であり、42年ぶりの出場となった第45回明治神宮野球大会。創価大学に敗れたものの、タイブレークまで及ぶ、緊張感のある好ゲームだった。さぞプレッシャーを感じただろうと思いきや、「プレッシャーは力に変えるものであって、マイナスに働かせるものではない。だから練習の時から、あえて自分にプレッシャーをかけています」とほほ笑む。「神宮大会では納得のいく投球ができました。関東

の強豪相手にあのようなゲームができたのは、本当に大きかったです」。寺嶋寛大捕手(現千葉ロッテマリーンズ)や今秋のドラフト会議の目玉と言われる田

▲第45回明治神宮野球大会で力投する石田さん  
(写真提供: 関大スポーツ編集部)

中正義投手と対戦したことで、プロに進める選手の力量を肌で感じ、さらに上の世界への“物差し”を得たという。

練習で、石田さんは多い時は日に350球もの投げ込みを行っていたといいます。「僕はわがままなので、自分のタイミングで練習に付き合ってもらうことも多く、チームメートにはたくさん負担をかけ、サポートしてもらいました」。30勝を達成した秋季リーグ戦では、試合終了とともに、そのチームメートによる「絶対的エース石田光宏 祝30勝 感動をありがとう」の大横断幕が掲げられた。「知らないうちに作ってくれていて、1年次生から登板していたので、調子に乗っていると思われた時期もあったと思う。でも、日々の行動や練習に対する姿勢から、いずれ理解してもらえるという思いでやってきました。応援してくれて、本当にありがたかったです」。

1月、石田さんは新天地である東京ガス硬式野球部での練習を開始した。ドラフト候補とされながらプロ志望届を出さなかった理由を尋ねると、「まだプロの投手に勝っている点がない。同じ舞台上で勝負できる武器を1つでも多く身につけ、2年後にはドラフト1位で声が掛かる選手になりたいです。けれど、今の最大の目標は東京ガスを日本一にすること。プロのステージは結果としてついてくるものだと思います」。石田さんの新たな挑戦から目が離せない。



石田 光宏—いしだ みつひろ

■1994年、滋賀県米原市生まれ。近江高等学校卒。体育会野球部所属。右投右打。10歳で野球を始め、高校では県大会優勝、近畿大会1回戦進出。大学1年次生からリーグ戦に登板し、エースとして活躍。3年次生で19年ぶりとなるリーグ優勝、最優秀投手賞を獲得し、42年ぶりの明治神宮野球大会出場に貢献。4年次生でリーグ通算30勝を達成。第59回関西スポーツ賞受賞。

## 色のチカラで 人と社会を元気に!

カラーのすべてを学べるスクールを創業

●A\*STYLE 代表 カラーコンサルタント  
林 由恵 さん —文学部 1996年卒業—

カラー総合スクール「A\*STYLE(エーススタイル)」は、JR奈良駅にほど近いビルの2階にある。このスクールを独立創業した林由恵さんは、色を通して、受講生一人ひとりが自分らしい人生を生きることがサポートできる。A\*STYLEは、色のチカラで「自分や周りを元気にする人」を育てる学びの場だ。



カラーコンサルタント・林由恵さんが運営するカラー総合スクール「A\*STYLE(エーススタイル)」では、色を使ってその人の魅力を最大限に引き出す知識やスキルをはじめ、色彩理論、色彩心理など、色のすべてを学ぶことができる。

林さんは色彩コーディネーター、ファッションカラーコーディネーター、色彩講師などの色に関する資格はもちろん、キャリア・コンサルティング技能士、速読インストラクターなどの資格も保有。A\*STYLEで講義を行うだけでなく、大学・専門学校でも講師を務める他、就職支援、企業の人材育成、起業支援のコンサルタントとしても幅広く活躍中だ。

A\*STYLEの受講生はほとんどが女性。年齢層も幅広く、目的もスキルアップや自分磨きなどさまざま。共通しているのは、色を取り入れて自分らしい人生を見つけ、自信を深めていくこと。

「色には人間の持つ可能性を引き出すチカラがあり、それぞれの色やその効果を知ることによって、さまざまなシーンで活用することができます。A\*STYLEは“色のチカラで人と社会を元気に!”を企業理念とし、“元気”とは“自己肯定感”だと考えています。それは、ありのままの自分を受け入れ、自分を信じていることができる状態。皆が自分らしい人生を実現することをサポートしたいです」と、スクール運営にかける思いを説明する。



▲(左)色のすべてを楽しく学べる「A\*STYLE」の講義(右)カラーセミナーの様子



林 由恵—はやし よしえ

■1973年奈良市生まれ。92年奈良育英西高等学校卒。96年関西大学文学部英文科卒。繊維専門商社勤務を経て、2004年color studio A\*STYLEを設立。A・F・T1級色彩コーディネーター、東京商工会議所認定一級ファッションカラーコーディネーター、色彩検定協会認定色彩講師、二級キャリア・コンサルティング技能士、脳開コンサルタント協会認定速読インストラクターなど、保有資格多数。

英語教員を志し、関西大学に入学。3年次に進路を考えた時、好きだったファッション・アパレル業界に進みたいと軌道修正し、繊維専門商社に就職。その後5年で退職した。「まだ知らない自分に会いたかった。新しい世界にチャレンジするならば20代のうちと考え、1年間、100万円を自分に投資することだけを決めて、会社を辞めた」と振り返る。色に出合ったのは、その人生の投資期間のことだった。受講したカラーセミナーで、色と心が深く関係していることを知り、興味を持ち始めた。それから2年間、専門学校で色彩について学び、A・F・T1級色彩検定1級に合格した。2004年、A\*STYLEはスタートしたものの、受講生はたったの3人。それが13年目に突入した今、これまでに学んだ受講生は2000人を超えた。「今後は、奈良から色の面白さや楽しさを発信し続け、私と同じように、人を元気にしたいと思う講師の育成に力を入れていきたい。そして、育成した講師と一緒に、地域に密着した教室を全国に開校することが夢ですね」とプランは膨らむ。

「わくわくする気持ちを大切に、素直に生きていきたい。それがたとえ困難な夢であっても、できるかできないかではなく、やりたいかやりたくないかで選びたい」と真っすぐな行動力で自分の道を切り開いてきた林さん。

大学時代を振り返って思い出すのは、赤の服をよく着ていた2年次の頃のこと。

「赤は行動・革新・チャレンジの色。当時の私には明確な目標がありませんでしたが、身体の中から“動きたい”という衝動がわいていたのだと、今は分かります。色はその時の自分自身を投影し表現することができるので、色を効果的に用いることで、キャリア教育やキャリア支援にも役立ちます。これからも、後輩たちに色の持つチカラと可能性を伝えていきたいです」。